

犯罪や事故から施設を守る

情報漏洩や火災など 施設に伴う リスクへの対策

火災に強い構造体に

建築基準法の性能規定化（2000年）に伴い、規定された個別の対策を行う他に、建物全体が火災に対して強く安全であるために、耐火性能、避難安全性能を高める設計が求められています。

例えば、耐火性能の高い構造である、火災に連動して働く防火設備が充実している、避難経路が確保されているなど、施設の性能を高めることなどが求められています。

情報セキュリティは建物と システムのバランスが大事

システムだけの情報セキュリティ対策ではリスクマネジメントとしては不十分です。例えば、電磁シールドを用いて内部の情報を外に漏れないようにする、監視カメラの設置やIDカードを用いた入退出を監視するなどハード面で行うことと、コンピュータへの不正浸入や、内部での情報運用管理に

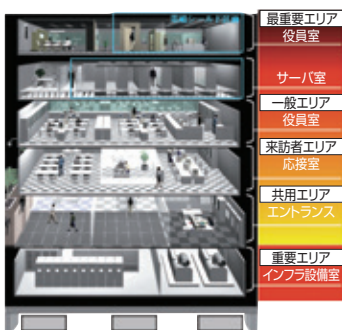
対する監視システムの構築といったソフトの面とを総合的に考えることが必要です。建物とシステム、それぞれの視点から互いを見直す

ことで見えなかつた弱点が発見でき、複合的に強化策の検討を行うことで、高度なセキュリティ体制を築くことができます。

技術紹介⑦

徹底した情報セキュリティ 「セキュアビル®」

「セキュアビル®」は施設セキュリティや情報セキュリティに対応した建物です。使用目的に合わせて施設を最重要エリア、重要エリア、一般エリアなどに分類します。例えば役員室を最重要エリアとし、電磁シールドによる盗聴などの防止を図る、一般エリアではネットワークを利用したウイルスチェックを行うシステムを構築するなど、それぞれに最適なセキュリティシステムを提案します。



技術紹介⑧

防火性能を高め、火災による被害を防ぐ

●火災フェイズ管理型防災システム

煙や室内温度上昇から火災を早期に判断し、避難誘導のための非常放送設備や防火シャッターなどの防災設備を適切に連動制御。早期の避難誘導や火災の被害拡散防止に役立ちます。

●ドレンチャー水幕型防火区画システム

水の幕によって防火区画をつくり、火災からの放射熱や熱気流を遮断し、室内の温度を下げ、炎症を防ぎます。



●新しい耐火概念・設計システム

構造全体で解析、評価することで、構造全体が壊れない合理的な耐火設計を実現します。

